



岡山大学 A12024

総合大学が担う特色ある教員養成の質保証

—地域と連携した全学教職課程の体系的構築と F D 活動の推進—

【プログラムの概要】

I 背景と必要性

1. これまで、総合大学では開放制のもと、各学部が独自に教員養成を担ってきたが、養成する教員像は不明確であり、体系的な教職課程も構築されてこなかった。また今日の多様化する教育課題に対応できる実践的指導力育成の観点は不十分であったと中教審答申（平成 18 年）でも指摘されている。大学教員も、教職課程を理解して指導する教職指導力が不足しており、教職課程を選択する学生の教職へのアドミッションポリシー（A P）は必ずしも確認されておらず、教職支援も十分ではない状況がある。岡山大学は、課程認定 8 学部を擁する総合大学として、養成する教員の質を保証する全学教職コア・カリキュラムを体系的に構築するとともに、大学教員の教職指導力を向上させるための全学的体制づくりが必要と考える。

岡山大学教育学部は、平成 18 年教員養成への特化し、教育実習・体験的授業科目をコアにした教員養成コア・カリキュラムで体系的な教職課程を構築し、積み上げ方式の教育実習において「教職実践ポートフォリオ」で行動目標を明確化し、実践的指導力の育成を行ってきた。また平成 20 年 4 月には大学院教育学研究科に中国地区発の教職大学院を設置した。教職大学院では、今日の学校現場の課題を取り上げて学校支援活動を展開し、実務家教員と研究教員の共同授業や教職指導力向上のための F D 活動を推進してきた。岡山県教育委員会・岡山市教育委員会とは連携協力に関する包括協定を結んでおり、教育行政・学校現場と連携した教員養成を行う基盤がある。

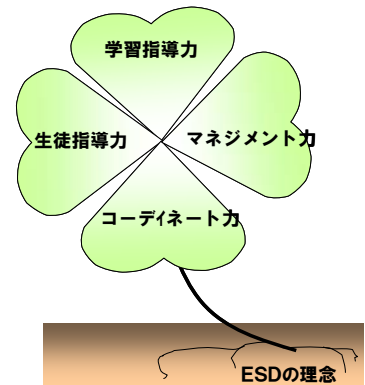
教職大学院設置を起爆剤とした教育学部・教育学研究科の実績に基づいて、全学教職課程運営委員会のもと、教育学部附属教育実践総合センターを全学化して、教育行政・学校現場と連携した全学的教員養成の実施体制をつくるのが可能である。

2. E S D (Education for Sustainable Development : 持続発展教育) は、21 世紀社会の持続可能な発展のために求められる原則や価値観及び行動を、あらゆる教育や学びの場に取り込むことを目標とし、改訂学習指導要領でも学校教育活動全般で取り組む必要があると提起されている。しかし、学校現場での取組は先進的な学校に限定され、大学の教職課程にも体系的には位置づけられていない。岡山大学の目的と教育理念は E S D に合致するものである。総合大学として E S D の理念のもと各学部の専門学習を統合することで、全学教職課程において養成する教員の基本的資質として E S D を推進する能力を育成できる。

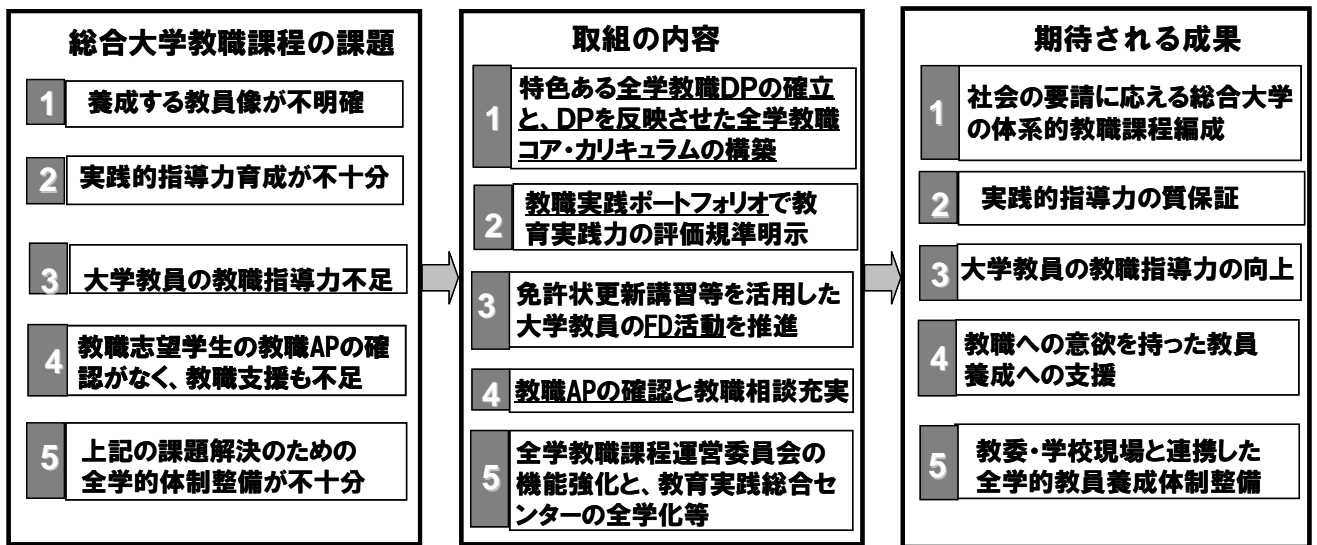
II 取組の目的と概要

本取組は、「ESDの理念をもち、学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力の4つの教育実践力を身につけた反省的で創造的な教員」を教職ディプロマポリシー（DP）として、「全学教職コア・カリキュラム」を構築し、21世紀の学校教員に必要な資質と実践的指導力を持つ教員養成の質を保証することを目的とする。

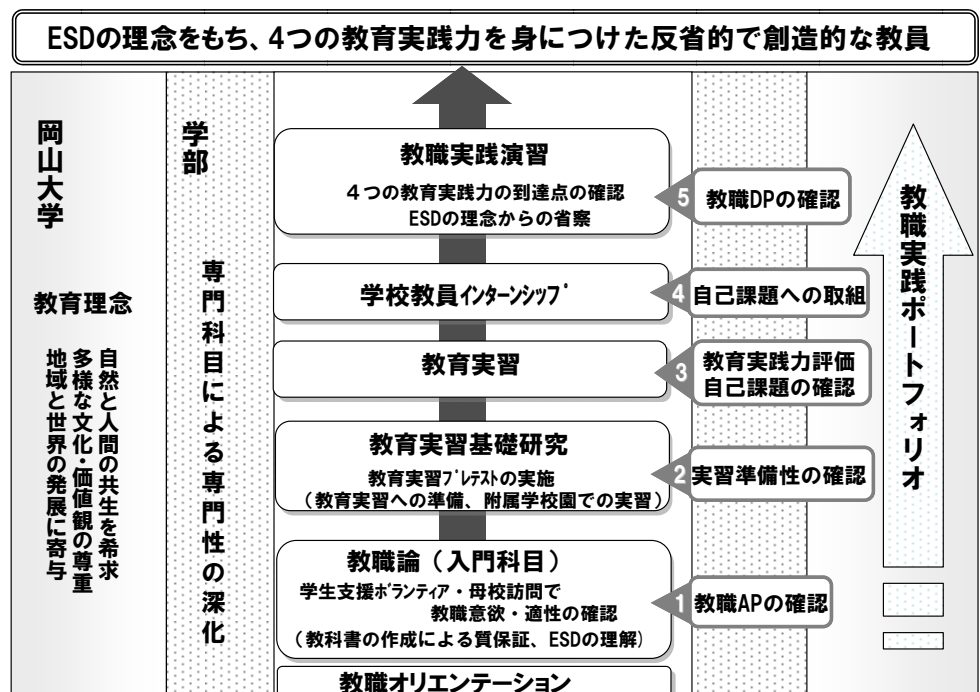
概要は下図に示した。



III 取組の概要

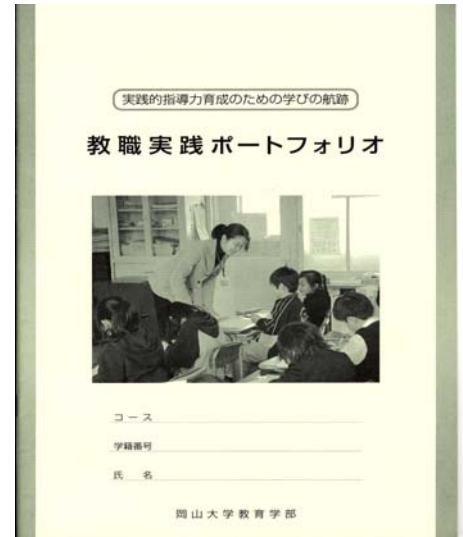


IV 全学教職コア・カリキュラムの構成



V 教職実践ポートフォリオをウェブ化する効果

- 1) 学生には、自己評価・相互評価を通して
教職課程を主体的に学ぶ羅針盤となる。
- 2) 学生の到達度の評価規準を検証する。
- 3) 学生と大学教員が双方向に学ぶ教材となる。



VI 学校現場・教育行政と連携した全学実施体制

